
IPv6 Ready Logo について



2015. 9. 28.

(一財) 電気通信端末機器審査協会

IPv6 Ready Logo Programとは

- 「IPv6 対応機器がお互いにIPv6 で通信ができる」ことを表す **国際的な機能認証ロゴ**を発行するプログラム
 - ① IPv6の実装は多岐にわたるため、多様な製品間での**相互接続性を明らかにして、市場に向けて強く発信する。**
 - ② 消費者の混乱を避けるために、**世界中で共通なIPv6 Ready Logo programの仕様を定義する。**
- IPv6 認定対象機器 : ルータをはじめとした**通信機器**や、パソコン・IP 電話機等の**通信端末、組み込みソフト(プロトコルスタック)、OS**(例Windows, Linux)等

IPv6 Ready Logo Program運営体制

検査仕様策定
認証機関認定

IETF
インターネット関係プロトコルの国際標準策定

標準化

IPv6 Forum 普及促進 啓蒙活動
<http://www.ipv6ready.org/>

IPv6 Ready Logo Committee
(議長: 江崎教授)
検査仕様策定・検査ツール提供・ロゴ発行



IOL/BII/CHT-TL

検査ソフトの維持・管理は、
分業して実施

IPv6普及・高度化
推進協議会 (v6PC)

【IPv6 Ready Logo Committee事務局】

審査機関の認定

(申込時は、申込者が審査機関を指定)

北米地区担当: IOL

アジア地区担当: TAHI

※フィリピン InfoWeapon(メーカ)
: 2010.11参加、2013.5に撤退

NEW

欧州地区担当: IRISA

米国① UNH-IOL
ニューハンプシャー大
Interoperability Lab.

台湾 CHT-TL
中華電信研究所
(CHT-TL)

日本
日本IPv6認証
センタ(JATE)

インド
TEC
(Ministry of
Communications
& IT)

NEW

ベトナムVNNICを立上げ中

審査機関
(認証を実施)

米国②
ケーブルラボ
(US)

NEW

欧州① IRISA
ETSI
(フランスIRISA実施)

欧州②
Go6
(チェコ)

韓国
情報通信技術協会
(TTA)

中国 BII
北京英納特網研究所
(Beijing Internet Institute)

IPv6 Ready Logo認定のための試験内容

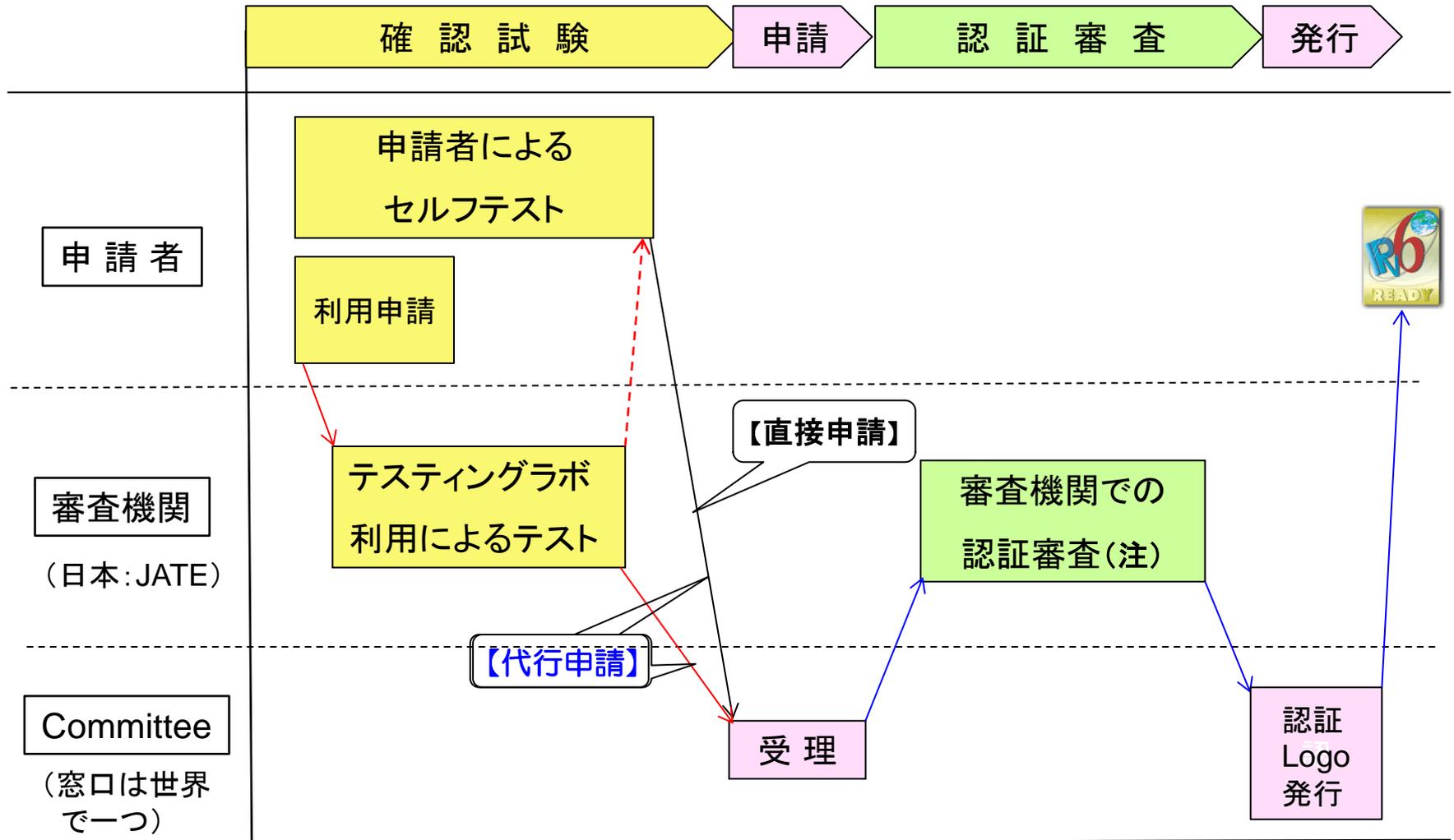
➡ 「Conformance Test」 及び 「Interoperability Test」 の両方を満たす必要がある。

IPv6 Ready Logo Program	審査基準 ⁽¹⁾	確認事項	標準日数(テストングラボ) ⁽²⁾
<p>Conformance Testing (仕様適合性検査)</p>	<p>試験仕様書 (英語)</p>	<p>プロトコルの仕様どおりに動作しているか</p> <p>⇒ 同一ベンダー間 ⇒ 約320項目 ⇒ フリーソフトによる ほぼ自動試験</p>	<p>標準日数 : 3日 + α</p> <p>(α : 不具合状況による)</p>
<p>Interoperability Testing (相互接続性検査)</p>	<p>試験シナリオ (英語)</p>	<p>機器間で双方向通信 ができるか</p> <p>⇒ 4つのベンダー間 ⇒ 約40項目 ⇒ テストシナリオ、 対象機器に応じて 項目ごとの設定、 コマンド投入等による 手動試験</p>	<p>標準日数 : 2日 + β</p> <p>(β : 不具合状況による)</p>

(1) 試験仕様書及び試験シナリオは、IPv6 Ready Logo Programのホームページから無料でダウンロードできる。

(2) JATEが設置している試験環境・ツール及び技術的、審査事務的各種の支援機能(有料)

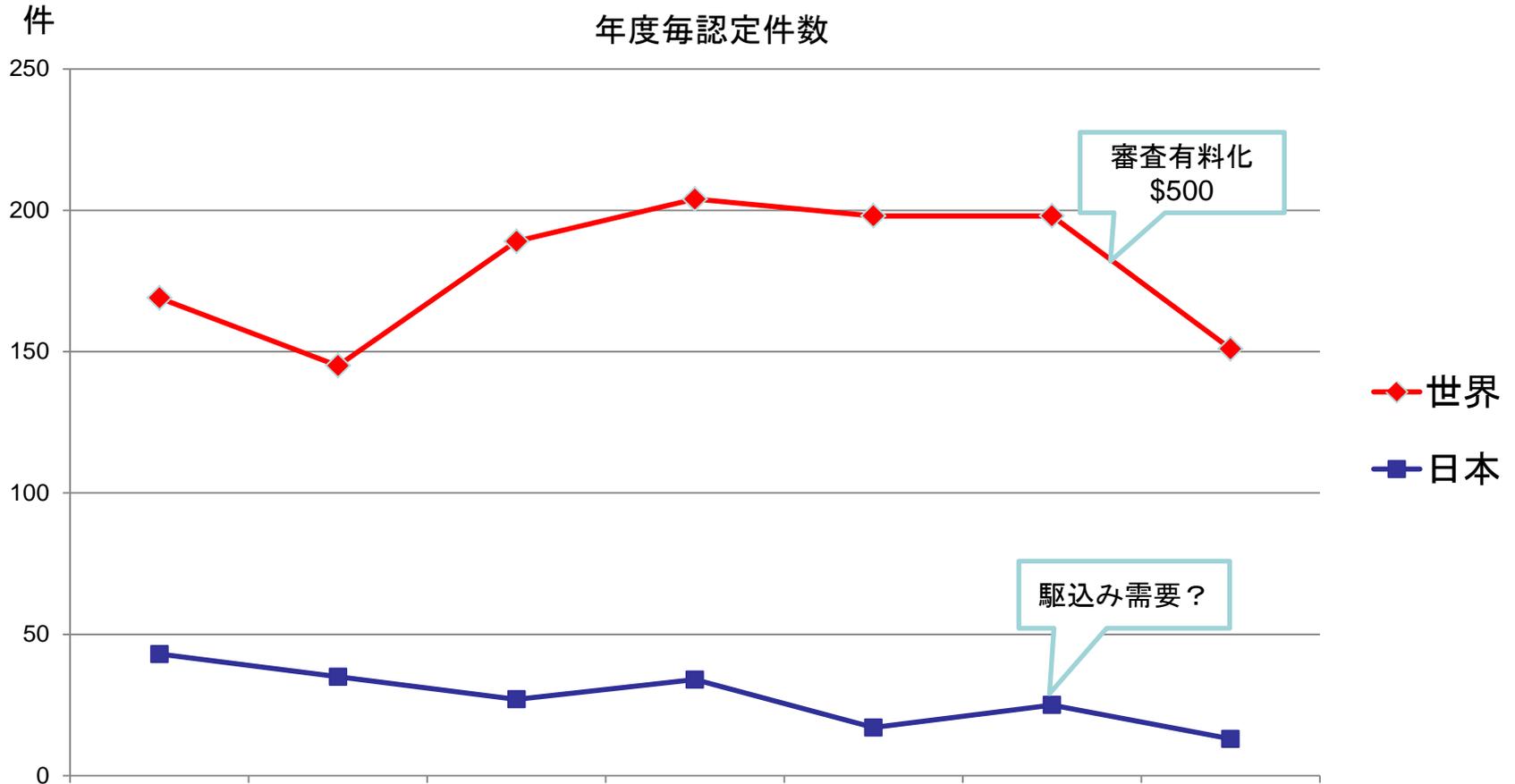
IPv6 Ready Logo 認証の流れ



(注) 申請者への問合せ・不具合の指摘等を含む。審査仕様や申請は全て英語

IPv6 Ready Logo認定件数(年度毎)

Phase-1及びPhase-2



	2008年度	2009年度	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度	(合計)
世界	169	145	189	204	198	198	151	(1254)
日本	43	35	27	34	17	25	13	(194)

国別のIPv6 Ready Logo取得状況(累積)

Phase-2のみ

